

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2774003301		
法人名	有限会社アミティケアサービス		
事業所名	グループホームアミティ3号館		
所在地	豊中市箕輪2丁目11-10		
自己評価作成日	平成 23年 3月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 6月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2774003301&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 4月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の『その人らしさを大切に住民慣れた町で仲良く「ゆったり」、「豊かに」、「楽しい」生活を』を基に、四季を感じていただけるように年中行事を充実させ、誕生会、お花見、お彼岸のおはぎ作り、バーベキューなど家族様と一緒に楽しんで頂けるように努めています。生活面では出来る限り自立した生活を送って頂けるように、入居者様の「出来ること」、「出来ないこと」を見極め、入居者様が不安や混乱がなく過ごしていただけるように努めています。また医療連携で早期発見、早期対応に心がけ入居者様や家族様に安心して生活していただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表は地元出身者で、自治会の役員を務めるなどし、また職員も地域の人が多く、行事などの誘いや、参加などで地域との交流を積極的に行っています。散歩中には、近所の方が声をかけてくれたりする等、暖かく見守ってくれています。代表者、職員ともに、ホームの理念である「その人らしさを大切に住民慣れた街で仲良く、ゆったり、豊かに楽しい生活を」を常に意識しながら、可能な限り、利用者の意向を聞き、理念の実現に向けて取り組んでいます。家族の訪問も多く、訪問時には、職員に気軽に相談できる雰囲気を作り、配慮し、要望などにはできるだけ応えるように努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成して、分りやすく玄関ホール及び更衣室、事務所に掲示し、事業計画でスタッフにも周知するようにしている。会議やミーティング時などにも確認をしている。	ホームの理念である「その人らしさを大切に住み慣れた街で仲良く、ゆったり、豊かに楽しい生活を」を常に意識しながら、可能な限り、利用者の意向を聞き、理念の実現に向けて取り組んでいます。理念は玄関入口に掲示し、日常的に職員とも理念の内容を確認したり、話し合うことで共有できています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており行事(運動会・敬老会・夏祭り)への参加や近くの公園へ出かけたりしている。月に1回は近隣の小学生との交流会を行い、利用者の楽しみとなっている。また、代表が自治会の役員を勤めており、職員が老人会の世話役として地域との交流を図っている。	自治会に加入し、地域の行事などは案内等があり、小学校の運動会や敬老会、夏祭りなどには可能な限り参加しています。また、公民館で行われているふれあいサロンにも、昨年から比べ参加回数が増え、地域の方との交流も積極的に行われています。市が主催の介護フェアにも参加し、利用者と家族、職員が作ったアクリルたわしをバザーで出店し、売上を寄付しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症について、地域民生委員の方や住民の方の相談を受けたり、姉妹ホームのアミティ豊中と共同で、地域の方々が参加できる喫茶コーナーを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、外部評価結果報告及びホームの取り組み、また出席者の意見交換を行いサービス向上に活かしている。年に3回程度のペースで行なっています。また適宜ホームの問題点などについて各専門家から助言をいただく場として活用している。	運営推進会議の実施は、今年度は、年5回となっています。構成メンバーは、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員、ホーム職員となっています。以前は、構成メンバーの変更手続きに不便さを感じており、市の担当職員とも相談し、今年度からは、参加者の変更がある場合でも、柔軟に対応できるように変更されました。利用者の生活歴から、趣味や特技を伸ばせるような取り組みの提案があり、ホーム内でのクラブ内容の充実に向けて検討され、実施されています。	運営推進会議の実施は、概ね2ヵ月に1回以上の開催を目標に取り組んでいくことが求められます。構成メンバーの変更が柔軟になったことをきっかけに、利用者、家族への参加の声かけ等も柔軟に対応してはいかがでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	豊中市事業者連絡会に加盟し、行政の通達や情報を聞く会合にも積極的に参加している。月1度の介護相談員の来訪を受け、サービス向上における助言を受けたり、意見交換を行なっている。豊中市子供110番や市民サポートセンター施設として市との連携に取り組んでいる。	介護保険の更新時や確認事項などあれば、市の担当窓口、地域包括支援センターの方に相談し、日頃から協力関係を築くようにしています。年4回開催される地域密着型サービス連絡会には、市の担当者もオブザーバーとして参加してもらい、意見や情報交換、また事例検討などの研修も行っています。事故報告などの書類は迅速に対応し提出しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、基本的にはしていないがやむを得ない場合は家族などに了解をとるような体制がとられている。玄関はボタン式電子ロック錠ですが、操作の出来る入居者様はご自分で開錠を行い、職員の同行で外出をされている。</p>	<p>身体拘束排除のマニュアルを作成し、職員には周知徹底しています。施錠については、1階の玄関は電子ロックですが、外部からは暗証番号で解錠でき、内からは、押しボタン式で、誰でも簡単に開けることができます。2階入り口は、職員の手薄な時間帯や、利用者が入居したばかりで慣れておらず、帰宅願望が強い場合などには施錠しています。職員は、常に利用者の安全な生活、意向を第一に考え、家族からも意見を聞くなどして検討し、模索しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日常的に管理者やリーダーが職員と話し合い、またホーム内研修等を行っている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>特に成年後見制度については、施設長やケアマネージャーは見識を深めるように努力している。研修会には積極的に参加しており、必要な利用者には、司法書士等が相談に乗り、積極的に活用している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約の際は、必ず家族に重要事項説明書をもとに丁寧に説明するようにしており、説明書には図表を取り入れ簡素化するなどの工夫をしている。質問等十分受け、納得いただいた上で署名・押印をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書・意見箱を設置している。面会時に管理者や職員が意見・要望を聞き対応をさせて頂いている。また公的苦情受付機関や介護相談員来所日などを家族にお知らせして、相談、苦情解決の第3者窓口を紹介している。	意見箱の設置はありますが、職員は、直接、家族から相談、要望を聞き、対応しています。家族から、本人の趣味や、特技を生かした取り組みをしてほしいとの要望で、手芸などをクラブに取り入れ、他の利用者も参加でき活性化されました。また要望などがあれば、他の家族にもアンケートをとり意見を聴くなどしています。毎月1度、利用者のホームでの様子や、受診状況など、写真付きで「アミティ通信」を郵送しており、家族にも大変喜ばれています。毎月2回、介護相談員の方が来られ、利用者からの要望などを聞き、アドバイスをもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者とは、毎日面談又は電話連絡を取り、意見交換ができる機会を作っている。またリーダー、サブリーダーが職員の意見や提案をまとめ運営者や管理者と話し合う機会を設けている。	管理者は、日常的に職員と顔を合わせ、言葉を交わす機会を多く作り、何でも話しやすい環境作りに配慮しています。日々の申し送りや、ケアカンファレンスでは、積極的な情報、意見交換を行っています。毎月のシフト作成時には、職員の要望を反映しています。外部研修には希望すれば参加できるよう、勤務を調整するなどの配慮をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はスタッフと話し合いの機会を作り、各自の要望やストレスの軽減等改善に努めている。また事業所の研修以外にスタッフの要望する研修参加等の配慮を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修(アミティミニケアレポート)を月に一度行っている。 外部研修はスタッフのレベルに合わせ参加している。参加者は内部研修または回覧研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会、サービス部会、地域のグループホームの会合等参加をして意見交換を行いホームのサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでの間、出来る限り頻回に利用者宅に訪問し、利用者状況を把握するよう努めており、入居前からこれらの利用者状況を施設スタッフにも共有してもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に利用者や家族が困っていることや、求めていることは、おおむねは初回の段階で把握しているが、面会や、その後の何度かの来所時にも、なるべく傾聴する機会を設け、信頼関係構築の努力を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の電話相談時などに、おおむねの相談状況を聞かさせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得いただいた上で、他のサービスも提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には、日常生活の中で、家事などに参加していただき、昔ながらの日常生活の知恵などを教えてもらっている。また昔ながらの雑学やことわざ、方言、日本ならではの作法など教わる機会もあり、お互い学びあい支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時に現在の状況や本人の意向等の意見交換を行い、今後のケアの方針を話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みとしている飲食店に行っていただくようにしており、従来の関係が途切れないよう支援している。また、遠距離や旅行などこちらで不可能な場合でも、家族が可能な場合は、行なっていただくよう励行している。	買い物に出た際に、以前ホームに入居していた顔馴染みの方に会いに行ったりしています。行き付けの美容院にも行っていましたが、最近では、段差があり通うことが難しい状況になってきました。年2回の墓参りや、行きつけの鮭屋には家族の協力のもと出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間で気の合う者同士を配慮した、席の配置や、散歩に行く際のグループなどを配慮している。共通の趣味の方でカラオケ、ガーデニング、手芸等行っており、利用者同士の関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰をされた方には近況を尋ね電話連絡を入れ、入院治療等の理由で退所された方に対しては見舞いに行くだなどして、本人様の様態や家族の相談にも傾聴し、継続的な関りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や、意思疎通が困難な場合は家族の意見などを取り入れ、追記シートに記録し、スタッフ間で情報を共有するようにしており、これをもとに個別のレクリエーションや趣味等の活動に生かしている。おやつなども好みものを聞いて可能な場合は、一緒に買いに行くなど工夫している。	昔懐かしい品が載っている本をさりげなく見ながら、コミュニケーションを図ったり、バイキングの食事の際に、好みの食事を知ること、本人の意向や希望を把握するなどしています。個別の「追記シート」に知り得た情報を書き込み、職員間で情報を共有しています。	現在活用している「追記シート」から、気づきや情報をまとめ、職員が共有でき、より一層利用者の意向や、思いを汲み取り、個別ケアの支援につなげてはいかげでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を情報収集し、フェイスシートに記録し、スタッフ間で情報を共有している。ホーム内での生活の中で知り得た情報については、追記シートに記録し、スタッフ間で把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個別にスタッフ担当者を割り当て、入居者個人については担当スタッフが総合的に把握するよう努めている。またその日1日の経過についての情報は、申し送り時間を別に設け、スタッフ間で漏れないように申し送りノートに記載、また口頭での申し送りを徹底している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、本人や家族からの情報収集をした上で、フェイスシート、追記シートに記録し、これを基にスタッフ間でのケア会議を開き、作成している。作成した介護計画は、本人や家族に説明した上で、署名押印をもらっている。	介護計画は、3カ月に1度見直しを行い、状態の変化があった場合は、その都度見直しを行っています。見直しの際には、家族から要望などを聞き、主治医、担当者からの意見をもとに、計画作成担当者がまとめています。介護計画書は家族に確認し、署名、捺印してもらっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録・追記シート・申し送りノートに日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を記録し、情報をスタッフ間で共有している。これを基にケア会議で情報を出し合い、介護計画に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を生かして、かかりつけ医の指導を基本とし、利用者にとって負担となるような入院などは回避している。また早期退院も可能な限り受け入れている。通院などでは、家族の意向など確認した上で、職員や管理者が付き添い出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや敬老の日等中学校や小学校に出向き参加している。その他地域の季節行事や公民館の催し物等民生委員、介護相談委員の方から声をかけていただき参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族の要望により、かかりつけ医に受診できるよう支援している。近隣の医療機関とは定期的な往診機会もあり、緊急時対応も体制が整備されている。	提携している診療所から月1回往診があり、利用者の健康管理を行っています。入居前からかかりつけの医療機関を希望している利用者は、家族の協力も得ながら、継続して受診支援をしています。診療所の診察時間外は、携帯電話にて指示を仰ぐことができます。受診状況は、月1回の便りで報告しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連絡ノートを作成している。その他にも、口頭での指示、実際の手技を見て看護職員がいない場合でも、出来る範囲で支援している。受診の際も入居者様本人の状態を看護職員に伝え、出来る限り看護職も立会い受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と連絡を密にとり、症状が悪化しないように早期発見、早期対応を心がけ、入院された場合はご家族や医療関係者と相談した上で早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的に病院に搬送する時期について、家族様、かかりつけ医、看護職員と話し合いホーム内で情報を共有している。また状態の変化があるごとに、話し合い支援につなげている。	重度化や看取りについては、入居時に、本人や家族にホームとしての対応範囲を、口頭で説明しています。今のところ、医療体制が整っておらず、看取りは行っていませんが、利用者の重度化に伴い、今後は積極的に検討し、取り組んでいく意向があります。	今後の取り組みとして、職員に対する、研修等を検討し、重度化や看取りに対する意識付けや、ホームとしての取り組む方向性を話し合っていく機会を作ってはいかがでしょうか。また、運営推進会議などで課題として取り上げ、さまざまな意見を検討してみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はほぼ全員普通救命講習を受講しており、市民救命サポーター・ステーションに登録している。定期的にミニケアレポート等で緊急時の対応を再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会においてマニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施しており、消防署の講習を受講している。 9月1日の防災の日に、入居者様の食事形態に合わせ非常食を試食していただいた。	1階倉庫に、備蓄として水、レトルト食品などの非常食を用意しています。避難訓練は、年2回実施し、うち1回は消防署の協力を得て、利用者も参加し、実施しています。夜間想定訓練も、今後検討していく予定です。災害時には、同敷地内にある別法人のデイサービスにも依頼し、協力体制ができています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に接する態度は、勉強会などにおいても意識付けを徹底しているが、問題点などが出てきた場合は、管理者がスタッフを指導している。また、記録などについてはプライバシー保護にも配慮し、イニシャルにするなど工夫している。家族や外来者にも個人情報が出ないように配慮している。	職員の入社時には、個人情報の保護に関する誓約書を交わし、周知徹底しています。排泄などの声かけには気を配り、耳元で声かけを行っています。個人スペースを大切に、プライバシーに配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事のペースや時間、その日の服装、外出の行き先などできる限り希望に添えるように努力している。また、選択肢を設けその中で決定していただくような工夫もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念の「その人らしさを大切に」を念頭に置き日々の業務を優先するのではなく入居者様の希望を優先し、日常生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の好みを優先できるよう支援している。施設のほうでも2ヶ月に1回程度のペースで訪問理・美容を取り入れ、本人の希望に応じてパーマや毛染など副える様な体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食ホームで調理し、出来たての食事を提供している。入居者様に調理、味見、盛り付け、配膳、テーブル拭き等担当して頂き一緒に食事を楽しんでいる。箸や茶碗、湯のみ等入居者の馴染みの物を使用している。	食材のみ業者に依頼し、調理はホームで行っています。利用者の能力に合わせ、調理、盛り付け、配膳などを手伝ってもらっています。利用者一人ひとりの身体状況に合わせ、食事形態をペースト、刻み、極キザミ、一口大、とろみ食など工夫しています。また、食事介助が必要な利用者には、本人のペースに合わせ楽しんでもらいながら食事をとっています。食事量、水分摂取量は毎日記入し、職員は把握しています。年1回は、バイキングでの昼食を実施し、また、季節行事には、おはぎ、巻き寿司、ちらし寿司を利用者と一緒に作っています。昼食バイキング、季節行事には、家族も参加するなどして、利用者の楽しみの1つとなっています。箸や茶碗、湯呑みなどは使い慣れたものを使用しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事量はケアチェック表に記載し、職員全員で把握するようにしている。食事はその方に合った食事形態での提供を行い、腎疾患などで水分や食事に制限がある方は特に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後、就寝時等随時、歯磨き、口腔ケアを実施している。歯磨きが困難な方に対しては口腔内清拭を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により入居者様の排泄リズムを把握し、おむつの方も表情や仕草などによりできる限りトイレで排泄して頂けるように支援をしている。	日中はリハビリパンツを使用している利用者もできるだけトイレ誘導し、職員が二人介助で排泄支援を行っています。排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対し、すぐに下剤等を使用するのではなく、水分補給や、食物の工夫、腹部マッサージ、ホットパック、運動などに努め、それでも困難な時は、医師の処方した薬を飲んでいただいている。薬も画一的に飲むのではなく、薬の量や効果など個人になるべく合う対応を模索するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室前にはのれん、入浴札をかけ入浴者にわかり易く事前に順番がわかるよう表示を行い、順番に不公平がないように配慮している。入浴日以外でも希望があれば入浴していただいている。	入浴は週3回を基本とし、予定日以外でも希望があれば、入浴は可能です。利用者の重度化に伴い、浴槽に入ることが難しくシャワー浴だけの利用者が4名ほどいます。本人や家族には現状を説明し了解を得ていますが、今後の検討課題となっています。菖蒲湯やゆづ湯の季節風呂を楽しんでもらったり、香りのある湯上りローションでゆったりした気分を味わってもらえるような工夫をしています。入浴のない日には足浴をして、利用者に喜ばれています。	利用者の重度化に伴い、湯船につかることが難しくなっている状況です。現在も検討している、同敷地内のデイサービスでの入浴や、利用者が安全に気持ちよく入浴できる方法を、家族も含めた関係者で、引き続き検討していくことが期待されます。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の外出状況や、疲労の度合い、今までの生活習慣など配慮し、眠れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状、服薬に関しては申し送りノートに記載し、薬を組む者、確認する者、服薬支援する者、その薬が本人様であるか確認する者、という風に薬に関しての確認は複数段階で行うようにしている。また利用者全員の内服薬に関しては、写真入で作用、副作用を確認できるファイルを作成し、職員全体で周知するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個人の得意な分野の家事や裁縫等の手伝いをお願いしている。趣味でカラオケやガーデニングをされていた方はアミティクラブ等へ参加していただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や本人の体調、要望などに応じて、散歩に出かけている。お店におやつを買いに出かけたり、ご家族と外食される方もいる。外出記録をもとに偏らないように配慮している。	身体機能の低下や、重度化により、外出支援が難しくなっていますが、個人に合わせた外出支援を日々検討し、支援しています。近所へ散歩に出かけたり、車いすの利用者でも、玄関に新聞を取りに降りたり、花壇に水やりに出たりと、日常的に外気浴を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎月の小遣いの範囲で、利用者個人の希望に応じてお金を使ってもらうよう支援している。ご自身で管理可能な方には、ご自身で支払いなどしていただき、不可能な方にはこちらで支払いを代行するなど配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の使用が無理な入居者は職員が取り次ぎを行っている。手紙等は文面はご自身で出来る範囲で作成していただき、宛名はこちらで支援させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、個別空間の音や光が漏れにくいような構造がなされている。また空間のあらゆるところに、季節に合った置物や花などを配置し、季節感を楽しめるように配慮している。利用者の各居室の表札は、季節感を表現した手作りの貼り絵などを飾っており、利用者や家族が鑑賞して楽しんでいる。	共有スペースのリビングには、ゆったりとくつろげるソファを置き、利用者同士が仲良くテレビを見て、楽しめる環境作りに配慮しています。リビングには、行事写真や手作りの作品などが飾られ、玄関、階段コーナーには、入居者全員が女性ということもあり、皆が好きな人形などを置き、女性らしく、清潔感のある雰囲気となっています。食卓テーブルの下には、利用者の身体状況に合わせ、手作りの足置きや、食べこぼしが見えにくいように配慮された、仕切りなどが工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には複数のテーブルやソファが置かれており、状況によって人の集まっているテーブルや人の少ないテーブル等自由に移動できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や寝具等をできるだけ持参していただき、本人が居心地良く生活できるよう配慮している。	それぞれの居室入り口には、表札の下に、季節に合わせた手作りの作品を掛けています。ホームの備え付けとしてベッド、衣装タンス、エアコン、カーテンがあります。身体状況に合わせ、ベッドを電動に変更するなどの配慮もあります。夜間の転倒防止に備え、ベッド下にセンサーを設置し、安全にも配慮しています。持ち込みは自由で、テレビ、使い慣れた椅子、家族写真を飾ったりしています。携帯電話を使用している利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、手作りの表札を掛け、トイレにも手作りの案内や札を作り、混乱しないように配慮している。		